

# 第 37 回薬剤耐性菌研究会

会 期：平成 20 年 9 月 12 日（金）13：00～

平成 20 年 9 月 13 日（土）11：30

会 場：伊香保温泉 森秋旅館 会議室

〒377-0102 群馬県渋川市伊香保町伊香保 60

TEL: 0279-72-2601 FAX: 0279-72-5555

<http://www.moriaki-ikaho.co.jp/access/frame.html>

代表世話人：荒川 宜親（国立感染症研究所 細菌第二部）

事 務 局：山本 友子（千葉大学大学院薬学研究院  
微生物薬品化学研究室）

池 康嘉（群馬大学大学院 細菌学）

研究会事務局 連絡先：群馬大学大学院 細菌学（岩崎）

TEL: 027-220-7992 FAX: 027-220-7996

e-mail: iwa-ryo@med.gunma-u.ac.jp

# 第37回薬剤耐性菌研究会

## 会場案内図（伊香保温泉 森秋旅館）



- ・ JR 渋川駅より伊香保温泉行バス 20分 伊香保バスターミナル下車 徒歩5分  
(渋川駅からの伊香保温泉行きバスは電車の到着と連結していますので便利です)

バス時刻表	渋川駅発	伊香保バスターミナル着
	11:47	→ 12:03 (急行)
	11:52	→ 12:11
	12:17	→ 12:42
	12:32	→ 12:53

(詳しくは <http://www.kan-etsu.net/r-bus/timetable/shibu-ikaho-1.htm> )

- ・ 車で来られる際には、森秋旅館に直接お越し下さい。

## ご 案 内

### ●研究会ご参加の皆様へ

#### 1. 参加受付

受付は9月12日（金）12：00より森秋旅館にて行います。

#### 2. 口演発表

- ・演題の口演時間は12分、討論3分です。
- ・発表はMicrosoft Power Point お願いします。
- ・特に枚数の制限はありませんが、必ず制限時間内に終了するよう作成してください。
- ・プレゼンテーションで利用できる機材は液晶プロジェクターのみですので、発表者  
はご自分のコンピュータ（PC）をご持参下さい。液晶プロジェクターの入力端子は  
Dsub-15ピンのみです。ご使用になられるコンピュータのモニター出力をご確認下  
さい。必要な場合は各自アダプターをご持参下さい。コンピュータを持参できない  
場合は事務局へご連絡下さい。

## 第 37 回薬剤耐性菌研究会プログラム (発表 12 分、討論 3 分)

平成 20 年 9 月 12 日 (金)

(13:00~17:15)

13:00~13:45

VRE・MRSA 1

座長:長沢 光章 (東北大学病院 診療技術部)

### 1. 2008 年に全国 53 施設から分離された MRSA の感受性試験

○谷本弘一<sup>1</sup>、長沢光章<sup>2</sup>、荒川宜親<sup>3</sup>、池 康嘉<sup>1,4</sup>

<sup>1</sup>群馬大学大学院医学系研究科附属薬剤耐性菌実験施設、<sup>4</sup>同細菌学、<sup>2</sup>東北大学病院 診療技術部、<sup>3</sup>国立感染症研究所 細菌第二部

### 2. 埼玉県内の医療機関等におけるバンコマイシン耐性腸球菌の保菌状況調査

○山根一和 鈴木里和 荒川宜親

(国立感染症研究所細菌第二部)

### 3. 京都府下における vanA、vanB 型 *Enterococcus gallinarum* の施設内及び施設間伝播

○白野倫徳<sup>1</sup>、高倉俊二<sup>1</sup>、松村康史<sup>1</sup>、松島晶<sup>1</sup>、長尾美紀<sup>1</sup>、斉藤崇<sup>1</sup>、伊藤穰<sup>1</sup>、飯沼由嗣<sup>1</sup>、清水恒広<sup>2</sup>、藤田直久<sup>3</sup>、一山智<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>京都大学医学部附属病院 感染制御部、<sup>2</sup>京都市立病院 感染症科、<sup>3</sup>京都府立医科大学附属病院 感染対策部)

13:45~14:15

VRE・MRSA 2

座長:山根 一和(国立感染症研究所 細菌第二部)

### 4. 愛知県西尾市民病院における VanA 型バンコマイシン耐性腸球菌集団分離事例

○土田 賢一<sup>1,2</sup>、堀 成美<sup>1</sup>、松井 珠乃<sup>3</sup>、森兼 啓太<sup>3</sup>、岡部 信彦<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>国立感染症研究所実地疫学専門家養成コース(FETP)、<sup>2</sup>横浜市衛生研究所、<sup>3</sup>国立感染症研究所感染症情報センター)

### 5. 西尾市民病院 VRE アウトブレイクの制御までの道のり

○稲垣薫 土屋良記 松波充子 澤田憲朗 木内達也 判治八重子 竹田良一(ICT)

(西尾市民病院)

14:15~15:15

肺炎球菌

座長:郡 美夫(千葉市立海浜病院)

## 6. 血清型 6B, 6A 及び 19F 肺炎球菌の MLST と薬剤感受性の関連

和田昭仁(国立感染症研究所 細菌第一部)

~~~~~ コーヒーブレイク 14:30~14:45 ~~~~~

## 7. 化膿性髄膜炎患者から分離した肺炎球菌の血清型

○郡 美夫(千葉市立海浜病院)、長沢光章(東北大学医学部附属病院)、犬塚和久(安城更生病院)、佐藤智明(静岡県立がんセンター)、荒川宜親(国立感染症研究所)、小崎繁昭(日本臨床衛生検査技師会)

## 8. 肺炎球菌薬剤感受性検査成績の解析

○犬塚和久<sup>1</sup>、郡美夫<sup>2</sup>、長沢光章<sup>3</sup>、佐藤智明<sup>4</sup>、小崎繁昭<sup>5</sup>、荒川宜親<sup>6</sup>  
(<sup>1</sup>安城更生病院、<sup>2</sup>千葉市立海浜病院、<sup>3</sup>東北大学病院、<sup>4</sup>静岡県立がんセンター、<sup>5</sup>日本臨床衛生検査技師会、<sup>6</sup>国立感染症研究所細菌第二部、<sup>1-5</sup>社団法人日本臨床衛生検査技師会薬剤耐性菌調査部会)

15:15~16:15

耐性機構

座長:切替 照雄(国立国際医療センター研究所 感染症制御研究部)

## 9. 多剤耐性緑膿菌が産生する新規アミノグリコシドアセチルトランスフェラーゼの解析

○安藤(北尾)<sup>ともえ</sup> 公英、島田 佳世、桑原 朋子、切替 照雄  
(国立国際医療センター研究所・感染症制御研究部)

## 10. カルバペネム耐性緑膿菌の出現メカニズムについて- *in vitro* pharmacodynamic (PD) model での PK-PD 解析 -

○奥野 陽亮, 山口 高広, 藤村 享滋, 辻 雅克, 卷 秀樹, 山野 佳則  
(塩野義製薬株式会社 創薬研究所)

## 11. サルモネラ菌の薬剤感受性における多剤排出ポンプの関与

○小川美保<sup>1</sup>, 市村禎宏<sup>1</sup>, 霜島正浩<sup>1</sup>, 西野邦彦<sup>2,3</sup>, 松本佳巳<sup>2</sup>, 山口明人<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>株式会社ビー・エム・エル総合研究所, <sup>2</sup>大阪大学産業科学研究所, <sup>3</sup>科学技術振興機構・さきがけ)

## 12. 能動的に取り込まれた Fluorescein- $\alpha$ -D-galactopyranoside (FDG)を排出する大

## 腸菌の RND 型排出ポンプ

○葉山浩平, 松本佳巳, 飯野亮太, 西野邦彦, 野地博行, 山口明人  
(大阪大学産業科学研究所)

~~~~~ コーヒーブレイク 16:15~16:30 ~~~~~

16:30~17:15

検査・新技術 座長:黒崎 博雅(熊本大学大学院 医学薬学研究部)

### 13. バンコマイシン耐性腸球菌の効率的なスクリーニング方法に関する研究

○鈴木里和 山根一和 荒川宜親  
(国立感染症研究所細菌第二部)

### 14. 結核菌における新規イソニアジド耐性変異の同定と機能解析ならびにラインプローブ法を用いた迅速遺伝子診断法の開発

○安藤 弘樹<sup>1</sup>、末竹 寿紀<sup>2</sup>、桑原 朋子<sup>1</sup>、岩田 智文<sup>1</sup>、切替 照雄<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>国立国際医療センター研究所・感染症制御研究部, <sup>2</sup>ニプロ株式会社・総合研究所・第三研究開発部)

### 15. Loop-Mediated Isothermal Amplification Method for Rapid and Simple Detection of 16S rRNA Methylase Genes, *rmtA*, *rmtB* and *armA*.

Mitsuaki Nagasawa <sup>1,2,3</sup>, Kazunari Kamachi <sup>2</sup>, Jun-ichi Wachino <sup>2</sup>, Kunikazu Yamane <sup>2</sup>, Mitsuo Kaku <sup>1</sup>, Keizo Yamaguchi <sup>3</sup>, Yoshichika Arakawa <sup>2</sup>

(<sup>1</sup>Department of Laboratory Medicine, Tohoku University Hospital, Japan, <sup>2</sup>Department of Bacterial Pathogenesis and Infection Control, National Institute of Infectious Diseases, <sup>3</sup>Department of Microbiology and Infectious Disease, Toho University School of Medicine)

~~~~~

2日目

平成20年9月13日(土)

(9:15~11:30)

9:15~10:00

β-ラクタマーゼ・新技術 座長:長野 則之(船橋市立医療センター検査科)

### 16. 完全再構成された無細胞タンパク質合成システムの開発と制限酵素のスクリーニングへの応用

○吉田直樹<sup>1</sup>、澤田洋介<sup>1</sup>、Yu Zheng<sup>2</sup>、Richard J. Roberts<sup>2</sup>、飴谷章夫<sup>3</sup>、桑田英文<sup>3</sup>  
(<sup>1</sup>ニュー・イングランド・バイオラボ・ジャパン株式会社、<sup>2</sup>New England Biolabs inc.、<sup>3</sup>株式会社ポ

ストゲノム研究所)

**17. 部位特異的変異法を用いたメタロー $\beta$ -ラクタマーゼ (IMP-1) の基質認識に関わる loop1 上の Val61, Gly63-Trp64-Gly65 の役割の解明**

○黒崎博雅<sup>1</sup>, 松枝 聖<sup>1</sup>, 松田幸喜<sup>1</sup>, 山口佳宏<sup>2</sup>, 荒川宜親<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>熊本大学大学院医学薬学研究部, <sup>2</sup>熊本大学環境安全センター, <sup>3</sup>国立感染症研究所細菌第二部)

**18. *Shigella sonnei* に認められた新規キメラ酵素 CTX-M-64  $\beta$ -ラクタマーゼの特性**

○長野則之<sup>1,2</sup>, 長野由紀子<sup>2</sup>, 和知野純一<sup>2</sup>, 荒川宜親<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>船橋市立医療センター 検査科, <sup>2</sup>国立感染症研究所 細菌第二部)

10:00~10:30

キノロン耐性

座長: 岡村 登 (東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科)

**19. 東京都内一病院の下痢症患者から分離された *Campylobacter jejuni* の薬剤感受性およびキノロン系薬耐性化機序の検討**

グリバハル・バケリ<sup>1</sup>, 佐藤賢哉<sup>1</sup>, 千田俊雄<sup>1</sup>, 齋藤良一<sup>1,2</sup>, 小野恵美<sup>1,3</sup>, 岡村 登<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・生体防御検査学, <sup>2</sup>東京大学医学部附属病院感染制御部, <sup>3</sup>中野総合病院中央検査科)

**20. プラスミド上に存在するフルオロキノロン耐性遺伝子について**

和知野 純一 (国立感染症研究所細菌第二部)

~~~~~ コーヒーブレイク 10:30~10:45 ~~~~~

10:45~11:30

疫学・感染制御

座長: 鈴木 里和 (国立感染症研究所 細菌第二部)

**21. ペニシリン低感受性 B 群連鎖球菌に関する依頼解析**

○木村幸司、和知野純一、鈴木里和、山根一和、柴田尚宏、荒川宜親

(国立感染症研究所細菌第二部)

**22. 地方衛生研究所における薬剤耐性菌等に関する細菌学的、疫学的調査解析機能の強化に関する研究**

○綿引正則<sup>1</sup>, 磯部順子<sup>1</sup>, 八柳 潤<sup>2</sup>, 白木 豊<sup>3</sup>, 鈴木匡弘<sup>4</sup>, 倉田毅<sup>1</sup>, 荒川宜親<sup>5</sup>

(<sup>1</sup>富山衛研, <sup>2</sup>秋田健環セ, <sup>3</sup>岐阜保環研, <sup>4</sup>愛知衛研, <sup>5</sup>感染研)

### 23. 薬剤感受性パターン (antibiogram) の自動分類と 2 次元カラーコードマップの自動生成

○藤本 修平<sup>1</sup>、村上 啓雄<sup>3</sup>、八束 眞一<sup>4</sup>、山口 恵三<sup>5</sup>、荒川 宜親<sup>6</sup>、富田 治芳<sup>1</sup>、谷本 弘一<sup>2</sup>、井上 貴子<sup>1</sup>、山下 均<sup>1</sup>、野村 隆浩<sup>1</sup>、池 康嘉<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学講座細菌学、<sup>2</sup>同附属薬剤耐性菌実験施設  
<sup>3</sup>岐阜大学、<sup>4</sup>日高病院、<sup>5</sup>東邦大学、<sup>6</sup>国立感染症研究所)